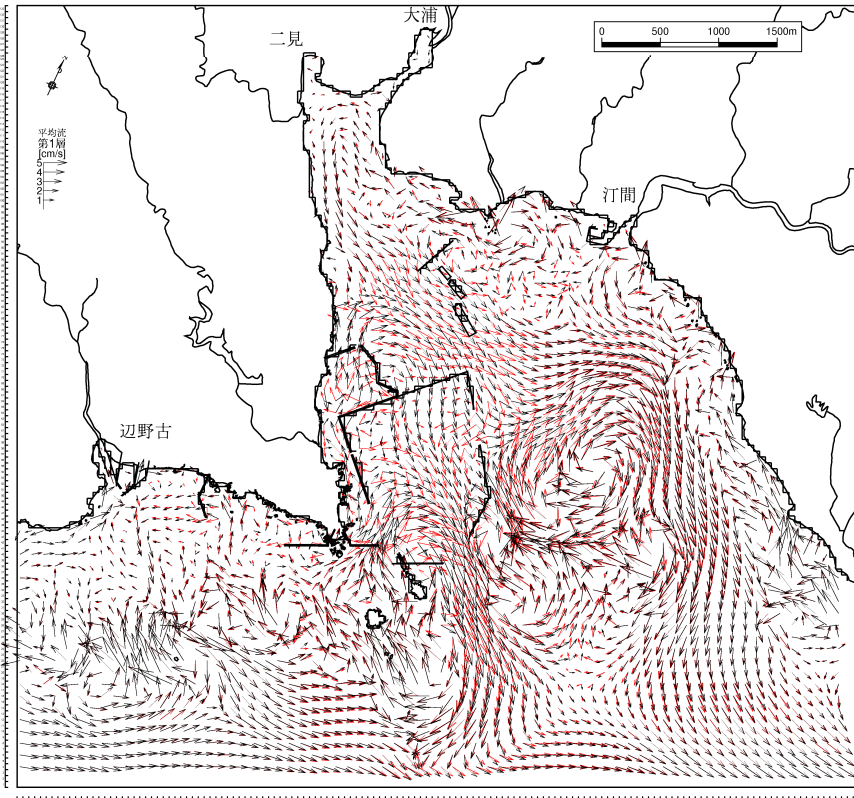
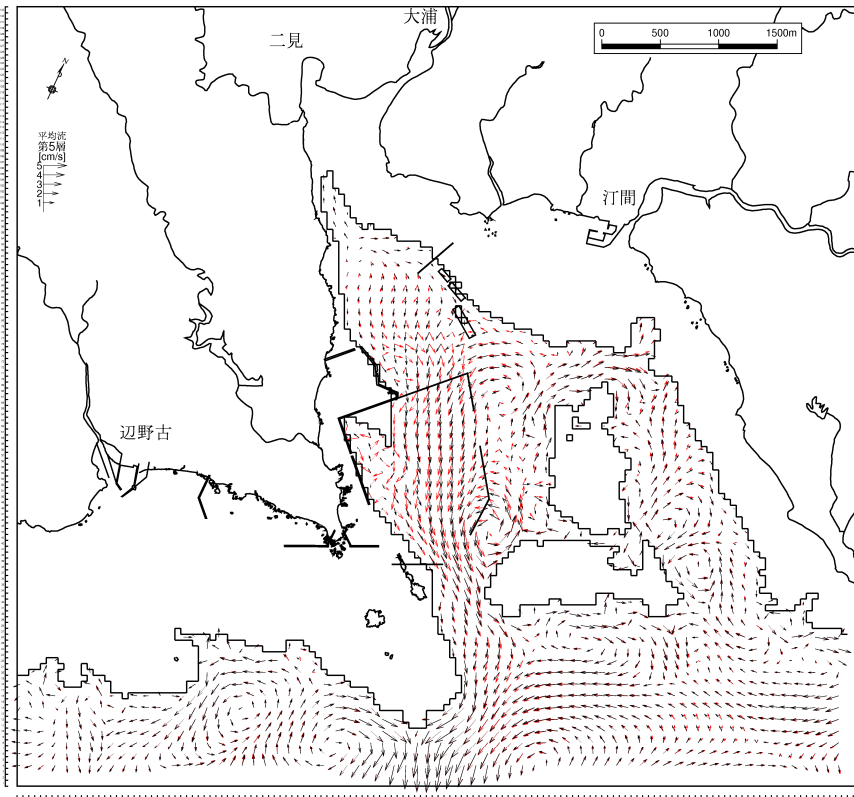


恒流（平均流），第1層[0~2m]



恒流（平均流），第5層[10~20m]

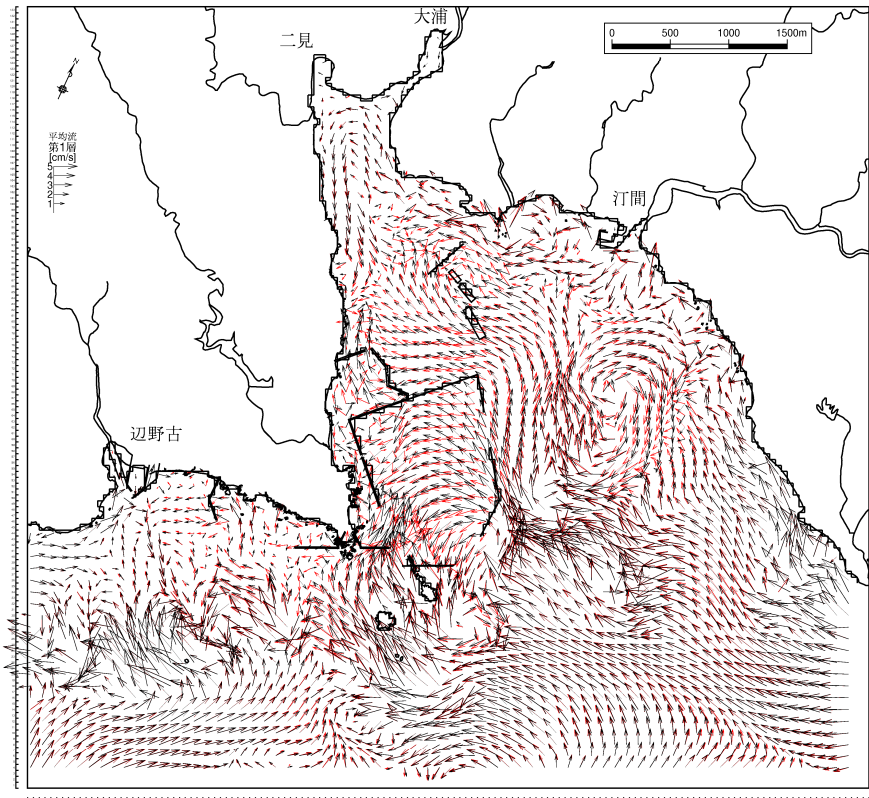


→ : 現況、→ : 工事中

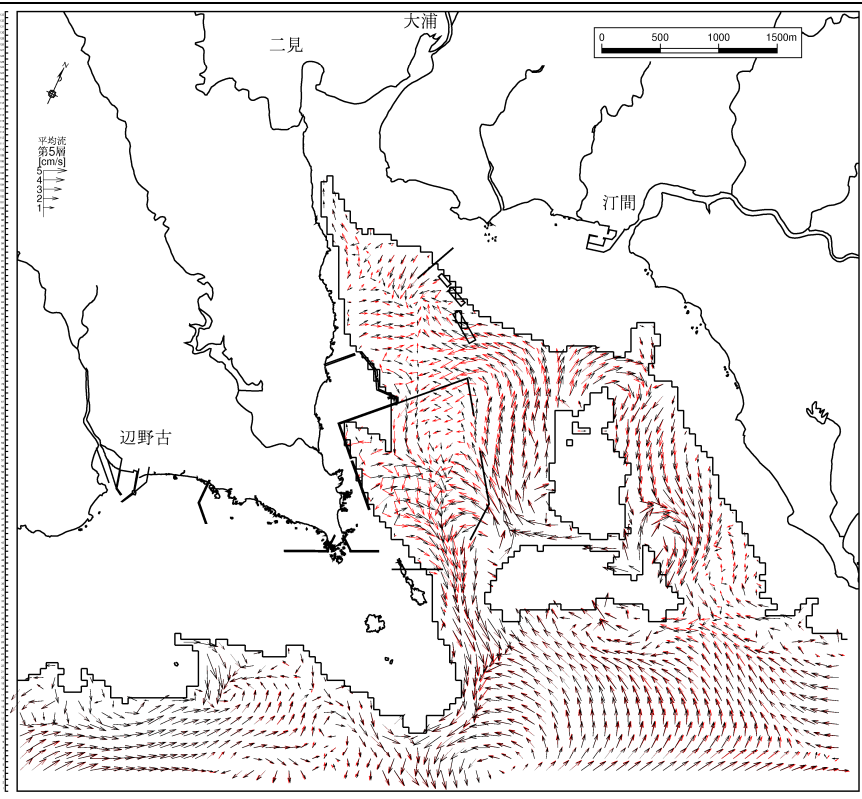
注) 流速ベクトルは2格子毎に表示

図-6.9.2.1.2(1) 工事中の流速ベクトル分布(1年次10ヶ月目、夏季)

恒流（平均流），第1層[0~2m]



恒流（平均流），第5層[10~20m]

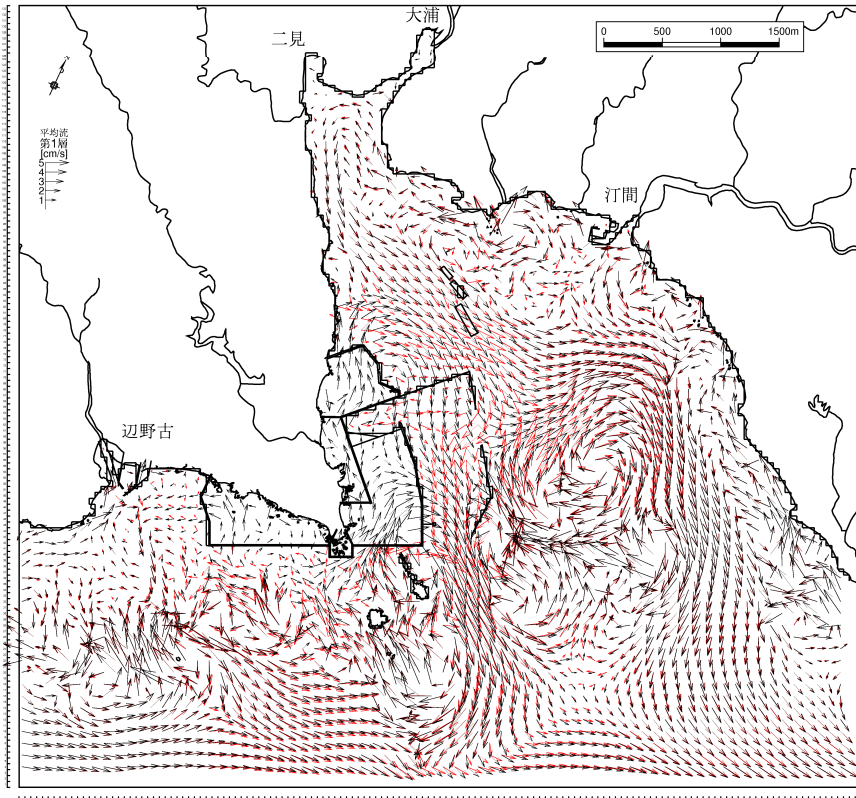


→：現況、→：工事中

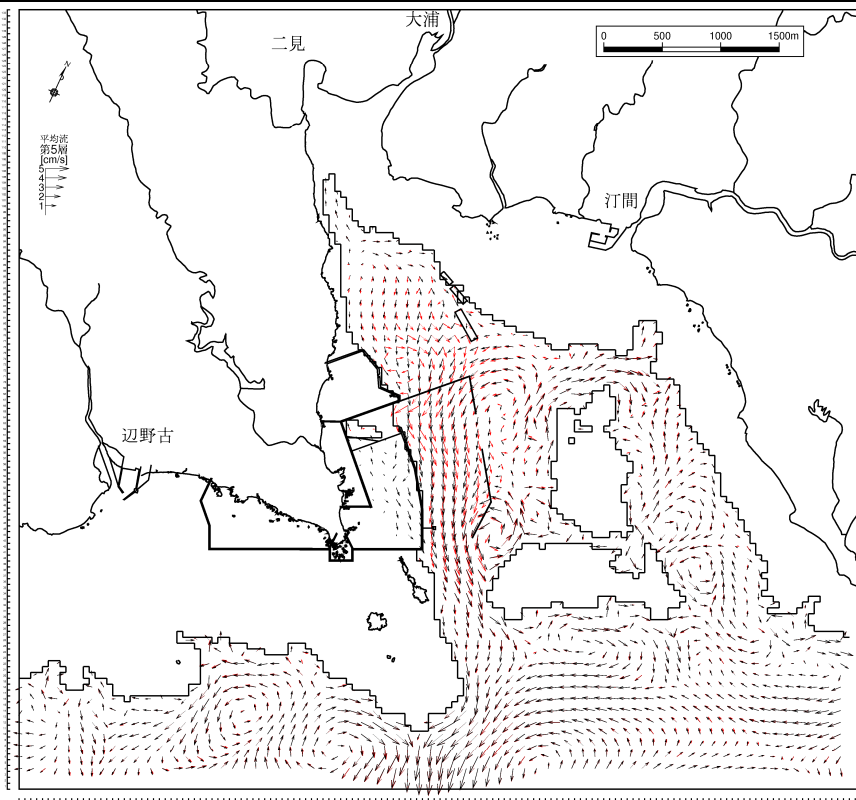
注) 流速ベクトルは2格子毎に表示

図-6.9.2.1.2(2) 工事中の流速ベクトル分布(1年次10ヶ月目、冬季)

恒流（平均流），第1層[0~2m]



恒流（平均流），第5層[10~20m]

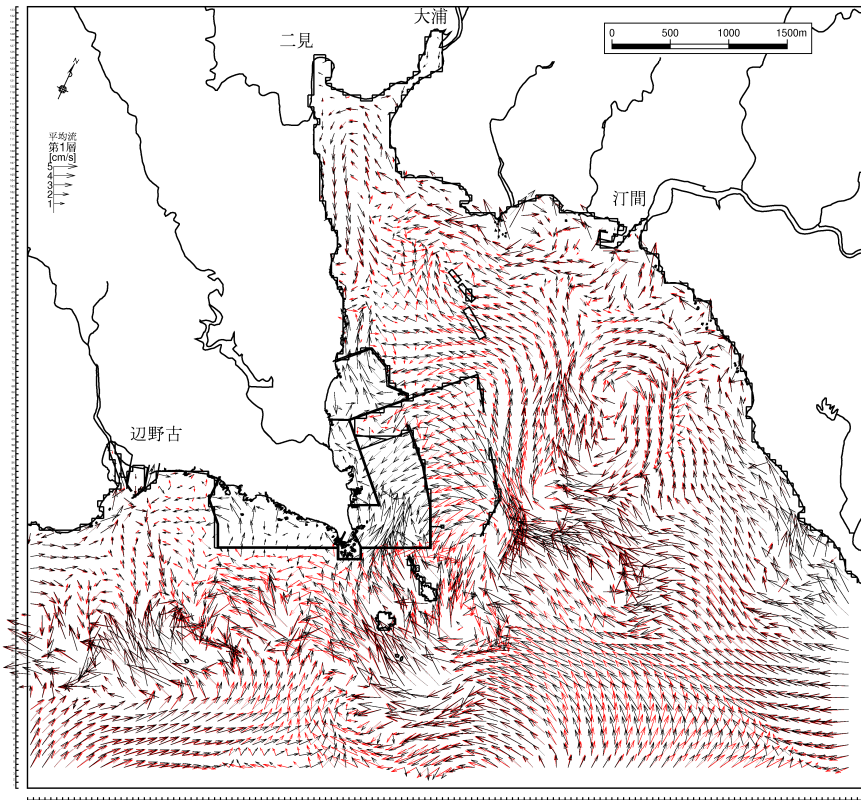


→ : 現況、→ : 工事中

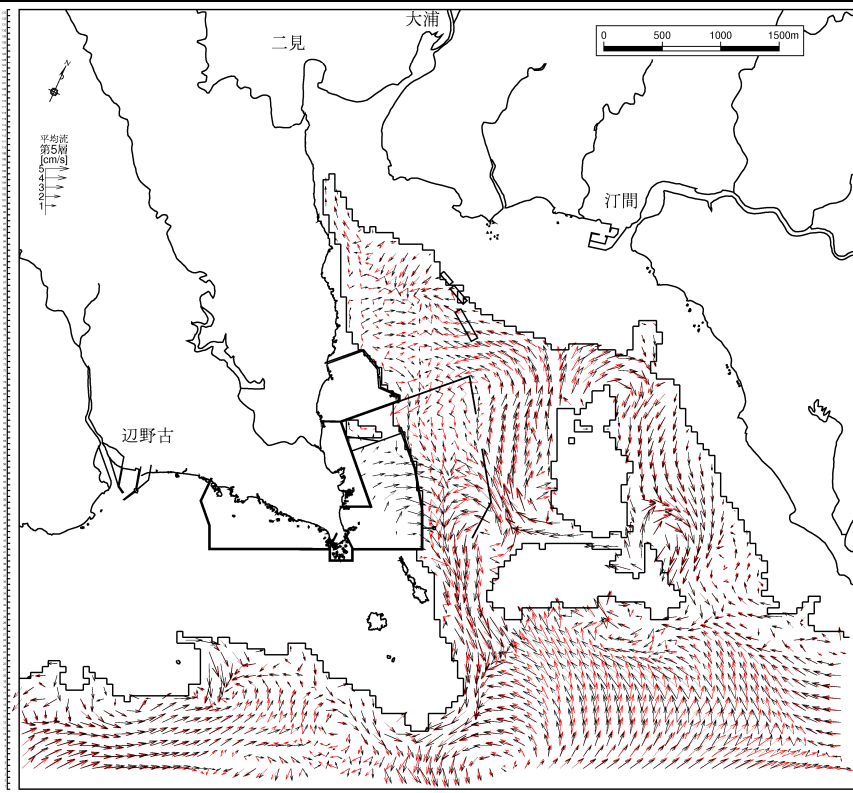
注) 流速ベクトルは2格子毎に表示

図-6.9.2.1.3(1) 工事中の流速ベクトル分布(4年次4ヶ月目、夏季)

恒流（平均流），第1層[0~2m]



恒流（平均流），第5層[10~20m]



→ : 現況、→ : 工事中

注) 流速ベクトルは2格子毎に表示

図-6.9.2.1.3(2) 工事中の流速ベクトル分布(4年次4ヶ月目、冬季)

2) ケーソン仮置に伴う海上ヤード周辺の水象変化

海上ヤード使用面積が最大となる2年次3ヶ月目の海上ヤード周辺の流れについて、代表層の流速ベクトルの比較及び流速絶対値の変化(工事中—現況)を図-6.9.2.1.4及び図-6.9.2.1.5に示しました。

ここで、代表層は最も流れの変化がみられた上層(第1層、海面下0~2m)及び海上ヤード周辺の水深を考慮して下層(第4層、海面下6~10m)とし、その他の層は資料編に示しました。

- ・ 恒流(平均流)ベクトルの変化をみると、現況に比べて仮置ケーソンを回り込むような流れに変化しています。
- ・ 流速絶対値の変化をみると、夏季は上層において-1~-3cm/sの流速変化がみられますが、下層の流速変化は±1cm/s未満です。冬季は上・下層で-1~-2cm/sの流速変化がみられます。なお、海上ヤードから離れた箇所における流速変化は汚濁防止膜や護岸の存在により生じています。
- ・ 予測結果をみると、海上ヤード周辺ではケーソン仮置により流速が低下することにより、水中の有機物や土砂が堆積しやすくなることが懸念されます。しかし、河川からの流入負荷量の状況や大浦湾内の水質の状況を考慮すると、顕著な底質悪化は生じないと考えられます。また、海上ヤード周辺の底質は細砂・中砂が主体であり、上述した程度の流速変化では顕著な海底地形変化は生じないと考えられます。
- ・ 波浪の変化は「6.10 地形・地質」において海底地形の変化と合わせて整理しており、仮置ケーソン背後でシールズ数(波高)が低下しますが、低下量は小さく、顕著な海底地形の変化は生じないと考えられます。